

# 第11回 救急撮影技師認定試験

日本救急撮影技師認定機構

令和3年7月7日(水)0:00-11日(日)23:59

特例措置レポート形式試験

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(1)各問題には1から5まで五つの選択肢があるので、そのうち設問に適した選択肢を一つ選び答案用紙にマークすること。

例 県庁所在地はどれか。

1. 栃木市
2. 川崎市
3. 神戸市
4. 倉敷市
5. 別府市

正解は3であるから該当する欄に以下のごとくマークする。

問題	1	2	3	4	5
例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2)答案用紙のマークには出来ればHB以上の黒さの鉛筆を使用する。
- (3)設問に要求した以外の個数を解答した場合には誤りとする。
3. 試験室で配布された問題冊子は試験終了時に持ち帰ってよい。
4. 試験開始の合図の後、直ちに中を確認、問題冊子および答案用紙等に印刷や枚数の不備があれば、監督者に申し出ること。

問題 1 救急医療体系について誤っているものはどれか。

1. 学術研究
2. 人材育成
3. 診療の標準化
4. 事業継続計画
5. メディカルコントロール

問題 2 急病者の診療について誤っているものはどれか。

1. がん「生理学的徴候の異常」を最優先する。
2. 緊急度の評価は ABCDE アプローチで行われる。
3. 診療放射線技師の役割として異常所見の診断が重要である。
4. 患者の訴えや昇降を糸口に診療が進められるため、「SOAP」に従うことが多い。
5. 切迫する D の評価は CT による頭蓋内病変検索のみならず MRI を用いた評価も重要視される。

問題 3 ショックの分類と症状の組み合わせについて誤っているものはどれか。

1. 血液分布異常性ショック - アナフィラキシー
2. 心外閉塞・拘束性ショック - 緊張性気胸
3. 循環血液量減少性ショック - 脱水
4. 心外閉塞・拘束性ショック - 心タンポナーデ
5. 血液分布異常性ショック - 肺動脈血栓塞栓症

問題 4 外傷診療における Primary survey の組み合わせについて正しいのはどれか。

1. 大量血胸 - FAST
2. 切迫する D - 頭部 CT
3. 脊髄損傷 - trauma pan-scan
4. 心タンポナーデ - 胸腔ドレナージ
5. 気道の閉塞 - 100%酸素の 10~15L/min 投与

問題 5 重症患者の管理について正しいものはどれか。

1. SOFA スコアは ICU 入室 24 時間以内の重症度評価に用いる。
2. 循環管理の心電図モニタは心臓機能と循環血液量の評価を行う。
3. APACHE II スコアは多臓器不全患者の経時的な評価スコアである。
4. 非侵襲的陽圧換気法の実用化が進んで覚醒下で比較的安全に行う事ができる。
5. 頭蓋内圧 50~70mmHg 以上、脳灌流気圧 20mmHg 以下に維持する事が推奨される。

問題 6 災害医療について正しいものはどれか。

1. START 法では意識レベルは評価する項目ではない。
2. 災害現場での活動において迅速な 3 T's の実施は最優先される。
3. DMAT の構成メンバーは医師・看護師・薬剤師・調整員である。
4. EMIS は災害時の消防と行政が情報を共有することが出来る通信手段である。
5. トリアージ中の処置として考慮するのは気道解放のための体位変と外出血の止血のみである。

問題 7 動脈血ガス分析結果の記述について正しいものはどれか。

1. 動脈血酸素分圧の基準値は RA で 35~45mmHg である。
2. 動脈血二酸化炭素分圧の基準値は 90~100mmHg である。
3. 敗血症は CCU を除く集中治療室における第 1 位の死亡原因である。
4. 代謝性アシドーシスは pH が基準値より低く BE も基準値より低くなった状態である。
5. 呼吸性アルカローシスは pH が基準値より低く PaCO<sub>2</sub> が基準値より高くなった状態である。

問題 8 全身外傷について誤っているものはどれか。

1. 大動脈損傷の好発部位は上行大動脈である。
2. 外傷全身 CT 読影の第一段階を FACT と呼ぶ。
3. 墜落は高所からの落下, 転落は斜面や階段を転がり落ちることである。
4. 超音波検査と比べ造影 CT の大きな長所は活動性出血を把握出来る点である。
5. 外傷全身 CT の主たる検査目的は脳血管や胸部大動脈などの血管障害の評価である。

問題 9 外傷全身 CT の適応について誤っているものはどれか。

1. 見逃しが多い疾患や病態の評価を目的に施行される。
2. 上肢のポジショニングは病態の評価や診断に影響を与える。
3. JATEC では非造影の体幹 CT 撮影の必要性を推奨している。
4. 「切迫する D」では頭部 CT の後に全身 CT 撮影が許容される。
5. Denver 基準や Memphis 基準は鈍的脳血管損傷のスクリーニング基準である。

問題 10 外傷全身 CT で画質と被ばくの適正化について誤っているものはどれか。

1. 体軸方向分解能および時間分解能 - pitch factor
2. FOV サイズと吸収線量の関係 - single pass scan の推奨
3. 画像ノイズの増加傾向への対処 - 高濃度造影剤の高速注入
4. 最大線量と連続曝射時間の関係 - segmented scan による撮影
5. 位置決め画像の収集範囲 - CT-AEC の動作特性と noise index の確認

問題 11 小児救急撮影に関する記述について正しいものはどれか。

1. 腸重積の治療ではバリウムを使用するのが一般的である。
2. 虐待が疑わしい場合は頭部 CT, MRI, 全身骨撮影が必須である。
3. 小児撮影は撮影線量が低いため防護メガネや防護具は不要である。
4. 超音波検査において体動固定ができればとくに鎮静させる必要がない。
5. 気道異物では呼気・吸気撮影が困難な場合には左側臥位正面像が有用である。

問題 12 小児の肺炎に関する記述について誤っているものはどれか。

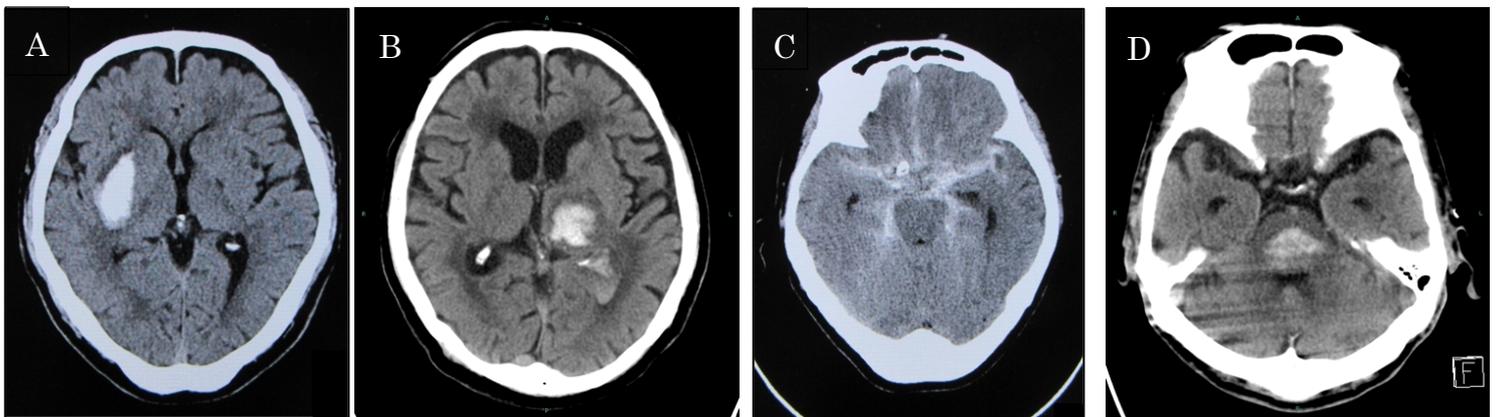
1. 肺炎の原因の約 85%はウイルス性である。
2. 細菌性肺炎は胸水を認めることはまれである。
3. ウイルス性肺炎は胸水を認めることはまれである。
4. 細菌性肺炎は肺区域性または肺葉性に広がる浸潤変化を認めることが多い。
5. ウイルス性肺炎の単純 X 線写真の所見として肺過膨張をみとめることがある。

問題 13 BCP に基づいた放射線部門の受援体制について誤っているものはどれか。

1. 災害急性期では人員をトリアージ【赤】に集めることが求められる。
2. 人員の招集体制には電話のみでなくメールや SNS の活用が望ましい。
3. 初療撮影室の X 線撮影装置は非常電源に接続されていることが望ましい。
4. 医療支援体制が整いつつあるなか医療機関では受援体制の構築が重要である。
5. 災害時診療において放射線装置の稼働状況は患者受け入れ体制を左右する因子である。

問題 14 脳疾患画像の記述について正しい組み合わせはどれか。

1. A. 視床出血 — B. 被殻出血 — C. 橋出血 — D. 小脳出血
2. A. 視床出血 — B. 被殻出血 — C. 小脳出血 — D. 橋出血
3. A. 視床出血 — B. 被殻出血 — C. くも膜下出血 — D. 橋出血
4. A. 被殻出血 — B. 視床出血 — C. くも膜下出血 — D. 橋出血
5. A. 被殻出血 — B. 視床出血 — C. くも膜下出血 — D. 小脳出血



問題 15 脳卒中とその症状の組み合わせについて誤っているものはどれか。

1. 視床出血 — 下方共同偏視
2. 橋出血 — 両側の著しい縮腫
3. くも膜下出血 — 爆発的な頭痛
4. 被殻出血 — 健側への共同偏視
5. くも膜下出血発症前の少量の出血 — 警告徴候

問題 16 呼吸器系疾患に関する記述について正しいものはどれか。

1. 自然気胸は肥満の若年者に多い。
2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）とタバコ煙は無関係である。
3. 肺結核では結核菌が証明されないと治療が開始されない。
4. 肺炎とは感染症によるものや、びまん性肺疾患だけである。
5. 急性呼吸促迫症候群（ARDS）の原因は敗血症が全体の 40%を占める。

問題 17 ACS(急性冠症候群)の記述について誤っているものはどれか。

1. 12 誘導心電図で ST 上昇を認めないものは外来での管理が可能である。
2. STEMI に対しての PCI は発症後 60 分以内に実施されることが目標である。
3. AMI（急性心筋梗塞）は ST 上昇型心筋梗塞と非 ST 上昇型心筋梗塞に分類される。
4. 初期評価の第一段階では病院到着から 10 分以内に問診, 身体所見, 12 誘導心電図の評価を行う。
5. 初期評価の第二段階では胸部単純 X 線撮影を行い重症度の評価および他疾患との鑑別診断を行う。

問題 18 アシストデバイスに関する記述について誤っているものはどれか。

1. VV-ECMO と PCPS はほぼ同義である。
2. ECMO には VA-ECMO と VV-ECMO がある。
3. 心停止に対して経皮ペーシングを用いることもある。
4. IABP は膨張と収縮を繰り返すことにより 2 つの循環動態上の効果が期待できる。
5. IABP は心臓のポンプ機能が低下している患者の循環動態を補助するために用いる。

問題 19 門脈内ガスに関する記述について誤っているものはどれか。

1. 胆管内ガスとの鑑別が重要である。
2. 腸管虚血は門脈内ガスの原因となる疾患である。
3. 門脈内ガスは CT において肝門部を中心に認められる。
4. 門脈内ガスの多くは消化管の重篤な障害の結果として生じる。
5. ガス産生菌による敗血症は門脈内ガスの原因となる疾患である。

問題 20 内因性疾患とその臨床徴候について誤っているものはどれか。

- |            |   |                    |
|------------|---|--------------------|
| 1. 尿路結石症   | - | 疝痛                 |
| 2. 急性胆管炎   | - | 急激な悪寒戦慄            |
| 3. 急性膵炎    | - | 心窩部から背部の強い持続痛      |
| 4. 消化管穿孔   | - | 突然の腹痛と強い腹膜刺激症状     |
| 5. 腸アニサキス症 | - | 腸管浮腫による内腔狭窄のため大腸閉塞 |

問題 21 泌尿器科疾患に関する記述について正しいものはどれか。

1. 上部尿路結石の約 90%は陰性結石である。
2. 急性単純性膀胱炎は 10~50 歳代の男性に多い。
3. 尿路結石の確定診断には超音波検査が推奨される。
4. 急性腎不全は BUN やクレアチニン濃度が急激に低下する。
5. 膀胱内が凝血塊で充満される状態を膀胱タンポナーデという。

問題 22 頰椎の骨折に関する記述について誤っているものはどれか。

1. Hangman 骨折は軸椎椎弓根骨折である。
2. Jefferson 骨折は環椎前後弓の骨折である。
3. 椎体圧迫骨折は過度な前屈により発生しやすい。
4. Chance 骨折は損傷が椎体終板に限局した骨折である。
5. 環椎歯突起間距離の開大は環椎横靭帯の断裂を示唆する。

問題 23 頭部・顔面部外傷について誤っているものはどれか。

1. GCS 合計点 8 以下を重度頭部外傷としている。
2. 上顎骨折は Le Fort 型骨折として 4 つのタイプに分類される。
3. 顔面外傷では気道・呼吸・循環の維持に注意する必要がある。
4. 点在する脳梁や深部白質の浮腫や微小出血には MRI が有用である。
5. 硬膜外血腫など骨に接する病変は CT 画像の WW を広げ WL 上げて構築するとよい。

問題 24 気胸における背臥位胸部単純 X 線画像の所見について誤っているものはどれか.

1. 肺の虚脱
2. 横隔膜の二重輪郭像
3. 横隔膜陰影の不鮮明化
4. 横隔膜の深い切れ込み
5. 縦郭・心臓辺縁の異常透亮像

問題 25 骨盤外傷について正しいものはどれか.

1. 骨盤骨折の稀な合併症として腹膜外膀胱破裂がある.
2. 後腹膜出血の有無は骨盤単純 X 線撮影では判断できない.
3. 造影 CT による活動性出血の検出感度は血管造影に劣らない.
4. 静脈性出血や骨盤部からの出血が多く止血は TAE が優先される.
5. 造影 CT では活動性出血の他に TAE のための AV shunt の確認も重要である.

問題 26 Damage control orthopedics (以下 DCO) の記述について誤っているものはどれか.

1. 創外固定を用いることが多い.
2. 手術が second-hit となり得る場合に適応される.
3. DCO の適応にあたっては生命予後因子が考慮される.
4. 長管骨に対しては髄内釘やプレート固定が多く用いられる.
5. DCO の行うゾーンは骨折のあるゾーンより広い範囲となる.

問題 27 妊婦外傷について正しいものはどれか.

1. 胎盤は水溶性造影剤に対してバリア能を有する.
2. ICRP2007 年勧告により 10mGy という胎児線量が指標となる.
3. 妊娠子宮が大動脈を圧迫し子宮動脈血流量が低下することがある.
4. 妊婦は過換気になっているため酸素投与は非妊婦に比べ 20%程度低減させる.
5. 妊婦は Fetal assessment として primary survey 後 secondary survey に移行する.

問題 28 脾損傷の記述について正しいものはどれか。

1. 脾動脈は終動脈である。
2. 脾摘出後には免疫機能が亢進する。
3. 粉碎型の損傷では IVR が適応となる。
4. 出血部を塞栓した後に側副血行路からの再出血に注意が必要である。
5. 仮性動脈瘤に対して脾動脈本幹の塞栓を行うと灌流圧が上昇するため注意が必要である。

問題 29 ガス壊疽の記述について正しいものはどれか。

1. 単純 X 線撮影はガス像の描出には用いられない。
2. ガス壊疽とは、有毒ガスの暴露による障害である。
3. CT を用いた少量の空気の描出には MIP 法が適している。
4. ガス壊疽患者を撮影する場合にはガウンの着用は不要である。
5. ガス産生菌は Clostridium 属と非 Clostridium 属に分類される。

問題 30 中毒患者の記述について誤っているものはどれか。

1. 診療室において患者の体位は原則として左側臥位とする。
2. シアン中毒患者の診療では吐物や付着物に触れないよう注意する。
3. 有毒ガスによる中毒患者を扱う場合、毒ガス用マスクが必要である。
4. 胸部単純 X 線画像は中毒の原因物質特定のために重要な情報となる。
5. 自損による患者撮影の際、撮影室内に一人にすることのないよう監視役のスタッフの応援を要請する。

問題 31 異物描出の記述について誤っているものはどれか。

1. 超音波診断は頸部や腸管内の異物検出に有効である。
2. 単純 X 線画像は異物の種類によって撮影条件を変化させる必要がある。
3. 顔面異物における CT 検査は MPR と比較して MIP 表示が有効である。
4. ピーナッツによる気道異物は MRI における T2 強調画像が有効である。
5. MDCT は皮下の異物などについても詳細で精度の高い情報を提供することができる。

問題 32 熱傷患者の胸部単純 X 線撮影手技について正しいものはどれか。

1. 撮影終了後は直ぐにカセットを引き抜いて除去する。
2. フラットリフトが困難な場合はログロールを実施する。
3. 経過観察に必要な撮影条件や画像処理,その他注意点等を共有しておく。
4. 毎日同じ体位での撮影が基本となるので正確な心胸郭比(CTR)を測定できる。
5. 広範囲熱傷患者は滅菌アルミシートに覆われているので感染対策は不要である。

問題 33 留置カテーテル挿入チューブについて正しいものはどれか。

1. 気管挿管チューブの正常留置位置は胸椎 3 番～4 番の高さである。
2. 一時ペーシングカテーテル挿入による合併症として肺静脈塞栓がある。
3. 気管切開チューブを挿入する輪状甲状靭帯切開部は頸椎 3 番の高さにある。
4. IABP カテーテル先端は胸部大動脈の左鎖骨下動脈分岐部より足側 4~5 cm 程度である。
5. 胸腔ドレナージチューブは 6 時間以上クランプして撮影し再貯留の有無を確認して抜去する。

問題 34 IVR 手技支援・術前計画(PPP)について正しいものはどれか。

1. IVR 施行する医師が必ず FACT, PPP を行う。
2. 診療放射線技師は PPP を行うべきではない。
3. 多発外傷緊急 IVR では医師 1 名で PPP を運用してはならない。
4. 仮想透視画像作成は中周波強調関数で再構成処理することが望ましい。
5. 仮想透視画像は全ての血管が追跡できるよう平衡相のデータを用いて作成する。

問題 35 ハイブリッド ER (HERS) について誤っているものはどれか。

1. HERS における診療は現行 JATEC 診療手順と異なっている。
2. 致死的状态にある患者を救命する為に各職種がそれぞれで急いで対応する。
3. HERS のコンセプトは施設により異なりシステム配置や運用も様々である。
4. HERS チームの一員として効果的なチームダイナミクス実践に努め救命に貢献する。
5. HERS 対応により重症外傷のみならず重篤内因性疾患の救命率向上にも寄与している。

問題 36 CT 室の設備と撮影時の注意点について正しいものはどれか。

1. 造影剤による軽度な副作用は重要ではない。
2. 初療室が隣接している場合は救急カートの常設は必要ない。
3. 救急搬送に使用されていたモニタは可能な限りそのまま使用する。
4. 撮影方法は撮影者の判断によることが多いので撮影マニュアルは必要ない。
5. 救急患者に対する造影剤の使用は killer disease の検索のため最優先される。

問題 37 医療情報の管理について正しいものはどれか。

1. 医療情報は患者本人の社会的評価にあまり関与しない。
2. 放射線画像情報は「電子保存の 3 原則」が要求事項にあたらぬ。
3. セキュリティ対策は対策方法が判明しており大きな問題とならぬ。
4. 電子化された医療情報は即時性と可用性をもって大きな恩恵をもたらしている。
5. 保存性を確保するため電子カルテの消去・書き換えを防止することが必要である。

問題 38 事業継続計画（BCP）について誤っているものはどれか。

1. 策定した BCP は職員に定着させるため極力変更をしてはならない。
2. 災害拠点病院では BCP に基づいた演習の実施が義務化されている。
3. 業務再開フェーズはもっとも緊急性の高い業務（基幹業務）から再開する。
4. 業務回復フェーズは業務再開フェーズ後さらに業務の範囲を拡大する時期である。
5. BCP をもとに教育や訓練を行い BCP に改定を加えていく手段を事業継続マネジメント（BCM）という。

問題 39 放射線による癌以外の影響について誤っているものはどれか。

1. 自施設において不均等被ばく管理での水晶体の等価線量を確認すべきである。
2. 血管撮影では防護板などを有効に利用することが水晶体被ばくの低減に効果的である。
3. 循環器系疾患は死亡率・罹患率の両者において重要な放射線晩発障害と考えられている。
4. 心血管系疾患と脳血管疾患では分割や慢性被ばくにおいてしきい線量が急性被ばくと同じであるかどうかは不明であるため、これら 3 種類の被ばく形態でしきい線量は同じ (約 0.5Gy) とみなすことにしている。
5. 従来 150mSv/年であった水晶体の線量限度を「定められた 5 年間の平均で 20mSv/年、かついずれの 1 年においても 100mSv を超えない」へ変更することが議論されており、2021 年度より法令に取り入れられる予定である。

問題 40 診断参考レベル (DRLs) について誤っているものはどれか。

1. DRLs の設定は一般的には 80 パーセントイルが用いられている。
2. DRLs の指標となる値の再評価は定期的に行われなければならない。
3. DRLs は多くの場合は上方値のみが示されており下方値は示されていない。
4. IVR での確定的影響 (放射線誘発皮膚損傷など) の管理にまでは適用しない
5. 小児では年齢,身長,および体重によって区別した詳細なグループについて DRLs を設定しなければならない

問題 41 心電図誘導 (標準 12 誘導) について正しいものはどれか。

1. 標準 (双極) 肢誘導は aVR, aVL, aVF の 3 誘導からなる。
2. 標準 12 誘導心電図には標準 (双極) 肢誘導, 単極肢誘導, 単極胸部誘導がある。
3. 眼単極肢誘導とは,アイントホーフエンの三角形と呼ばれる三角形において電圧の差を記録する。
4. 単極胸部誘導において電極に向かってくる刺激は陰性の波になり離れていく刺激は陽性の波となる。
5. 標準 12 誘導心電図は心臓を 10 カ所から眺めたもので, 10 カ所に電極をつけて感知できる 10 通りの電気の流れを記録したものである。

問題 42 電撃傷について正しいものはどれか。

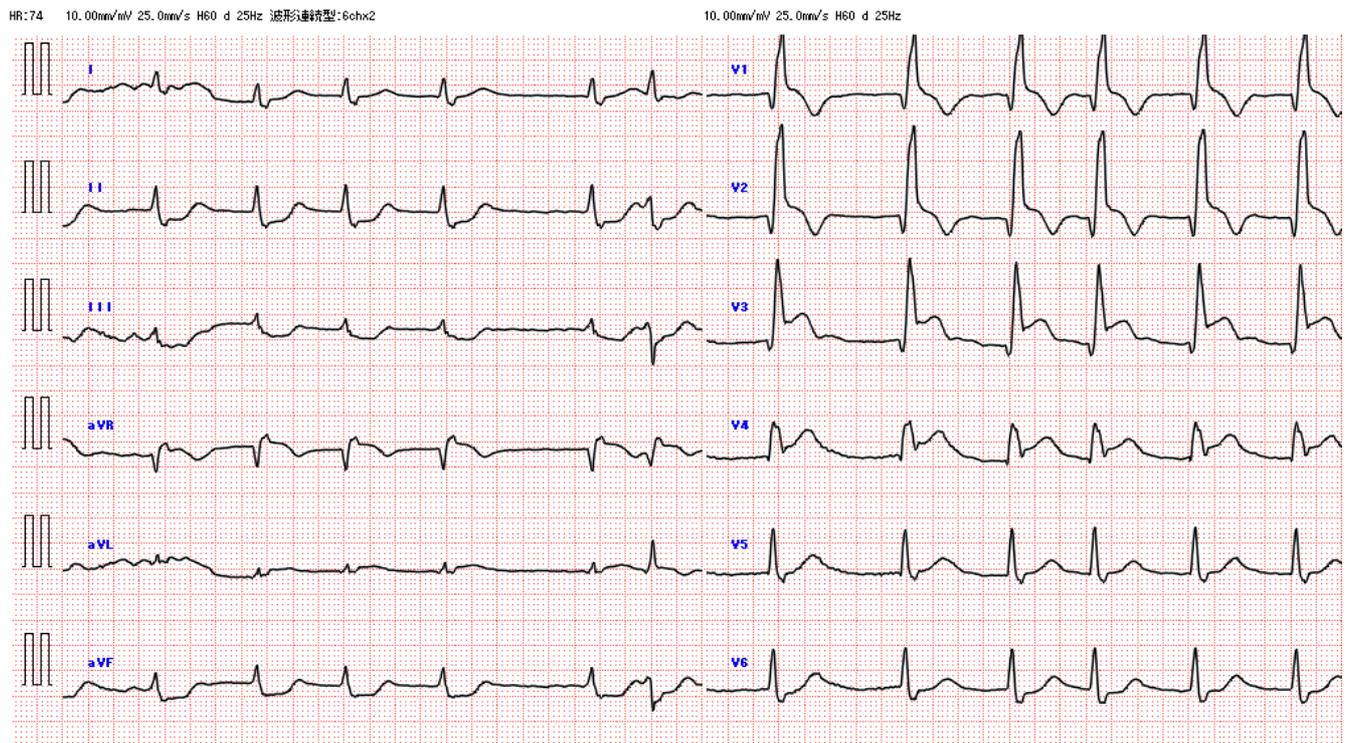
1. 人体の電気抵抗は骨>筋肉>血管>神経>皮膚の順に抵抗が小さくなる。
2. ミクロショック事故とは皮膚を介して体内に電流が流れる電撃症である。
3. 人体には電流の周波数が低くなるほど電撃を感じにくくなる特性が存在する。
4. 人体の電撃反応で 10mA 以上の電流が流れると心房細動が誘発されて死に至る。
5. もっとも電撃反応を起こしやすいのは 50~60Hz の商用交流電源の周波数である。

問題 43 放射線診療における感染対策について正しいものはどれか。

1. 患者移動の際には採尿バックは逆流を防ぐため必ず膀胱より低い位置で管理する。
2. 消毒とはすべての微生物を物理的または化学的な方法で完全に除去する工程をいう。
3. 低水準消毒薬としてエタノール、ポビドンヨード、次亜塩素酸ナトリウムなどがある。
4. ペルオキソー硫酸水素カリウム配合除菌洗浄剤は高い揮発性があるため複数回の清拭が必要である。
5. Spaulding の分類でベッド柵、テーブル、ドアノブ、パソコンのキーボードやマウスはセミクリティカル器材に当たる。

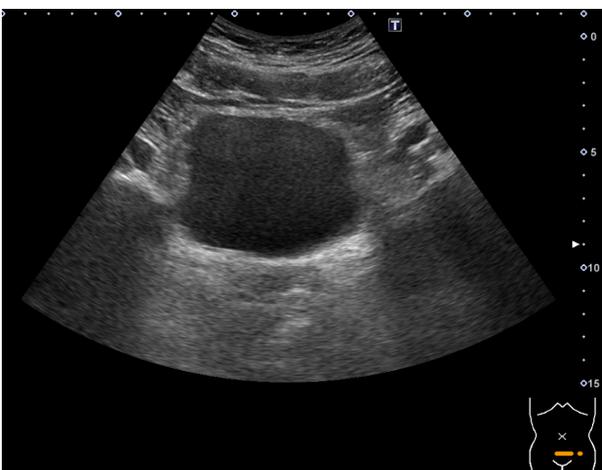
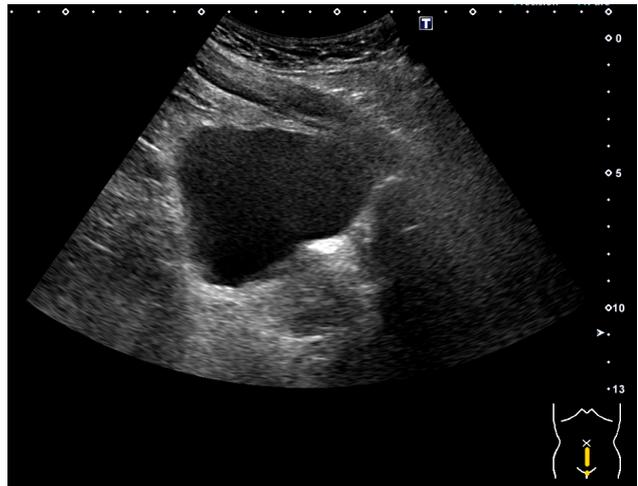
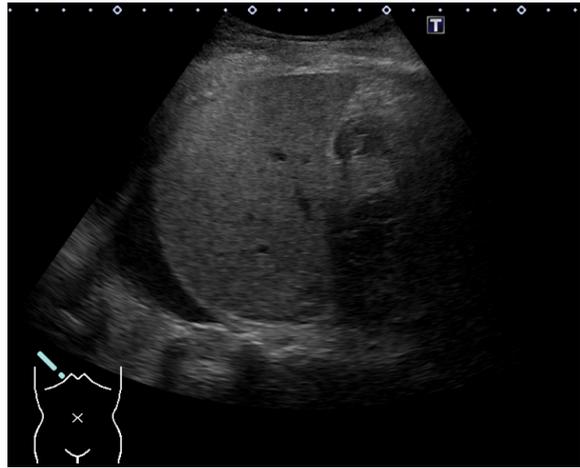
問題 44 心室細動自己心拍再開後の 12 誘導心電図と冠動脈造影である。以下の記述で正しいものはどれか。

1. 右冠動脈に閉塞像が認められる。
2. 左冠動脈回旋枝に閉塞像が認められる。
3. 左冠動脈の病変部 TIMI 分類は TIMI3 である。
4. 左冠動脈は RAO30°CAU30°で撮影されている。
5. 12 誘導心電図では II,III,aVf の ST 上昇が認められる。



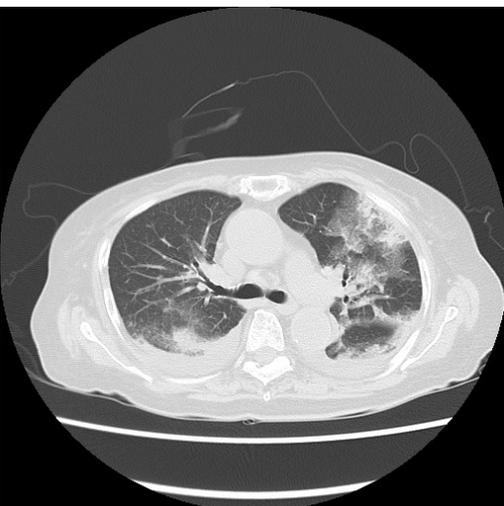
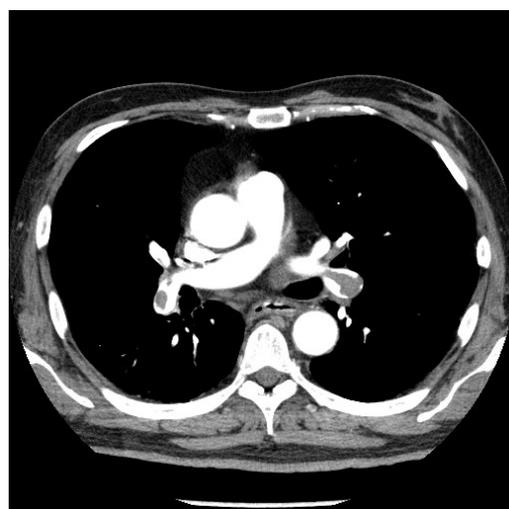
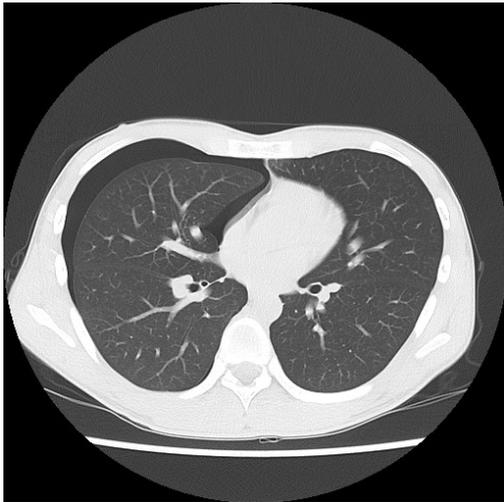
問題 45 50 歳代男性の FAST の画像である。誤っているものはどれか。

1. FAST 陽性である。
2. 心嚢内の液貯留を認める。
3. 骨盤内の液貯留を認める。
4. モリソン窩の液貯留を認める。
5. 脾周囲および左胸腔内の液貯留を認める。



問題 46 胸腹部 CT 画像に関連する記述について誤っているものはどれか。

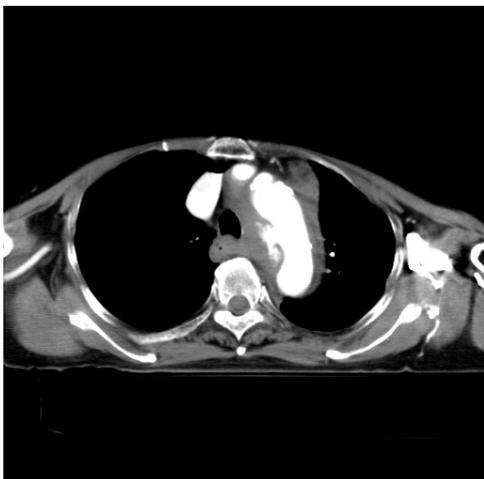
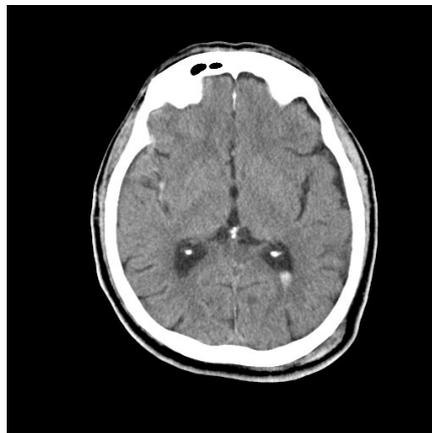
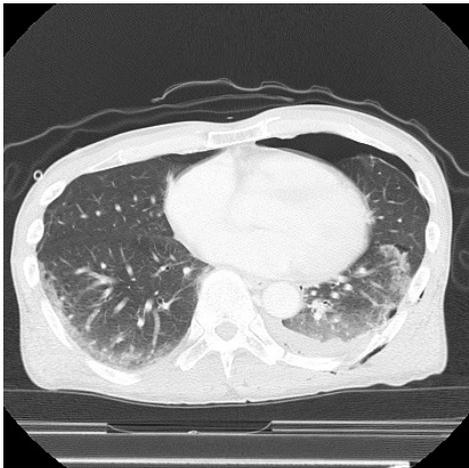
1. 画像 A は胸郭内にフリーエアを認め気胸が疑われる。
2. 画像 B は大動脈解離を認め Stanford B 型が疑われる。
3. 画像 C は外腸骨静脈に血栓を認め深部静脈血栓症が疑われる。
4. 画像 D は肺動脈に濃染不良域を認め肺血栓塞栓症が疑われる。
5. 画像 E はスリガラス影や浸潤影を認めウイルス性肺炎が疑われる。



A	B
C	D
E	

問題 47 外傷 CT 読影の第一段階である FACT (focused assessment with CT for trauma) において, FACT 陽性と判断する所見で誤っているものはどれか.

1. 画像 A の左肺挫傷と血気胸.
2. 画像 B の臼蓋部の骨盤骨折.
3. 画像 C の肝右葉に認める挫傷.
4. 画像 D の右シルビウス裂に認める高吸収.
5. 画像 E の大動脈壁の破綻による血管外漏出像.



A	B
C	D
E	

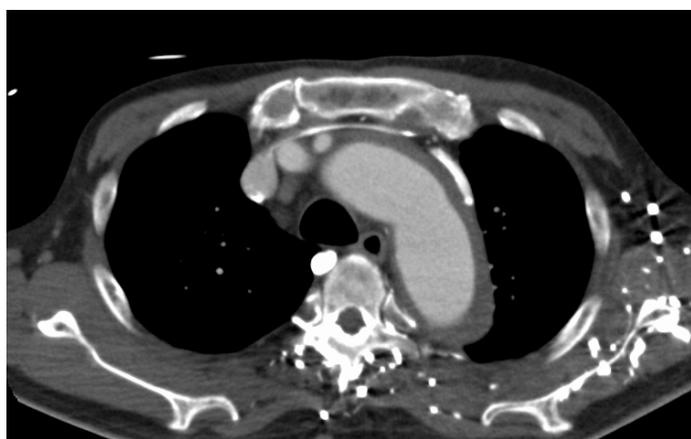
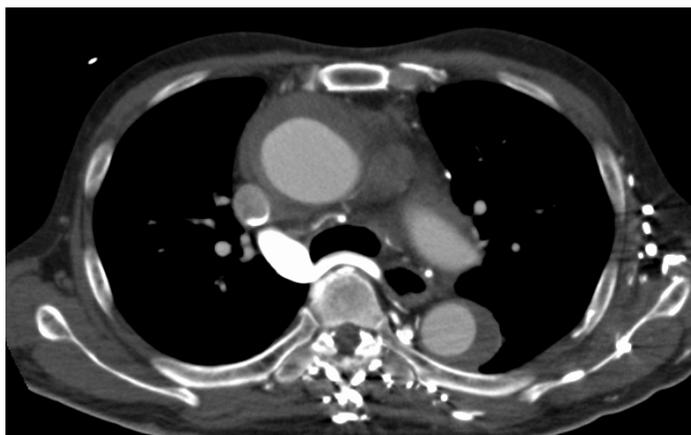
問題 48 心肺停止の心電図波形に関する記述のうち正しいものはどれか。

1. (A)から(D)のすべての波形に胸骨圧迫と電氣的除細動が適応とされる。
2. (A)は心停止であり心電図モニターや除細動器の電源やリードの接続モニターのゲインなどの技術的・操作上の問題がないかを再度確認する。
3. (B)は心室細動で心室の同じ場所から刺激が繰り返し発生し心室だけの興奮が続く状態であり、心臓のポンプ機能が完全に失われた致死的不整脈である。
4. (C)は心室頻脈で心室のあらゆるところから刺激が発生し心室が細かく震える状態であり、患者の意識を確認することが重要である。
5. (D)は無脈性電気活動で心電図上に波形が見られるが脈拍や血圧を伴わないリズムであり頸動脈の触知による脈拍の確認を行い蘇生には原因検索が重要である。



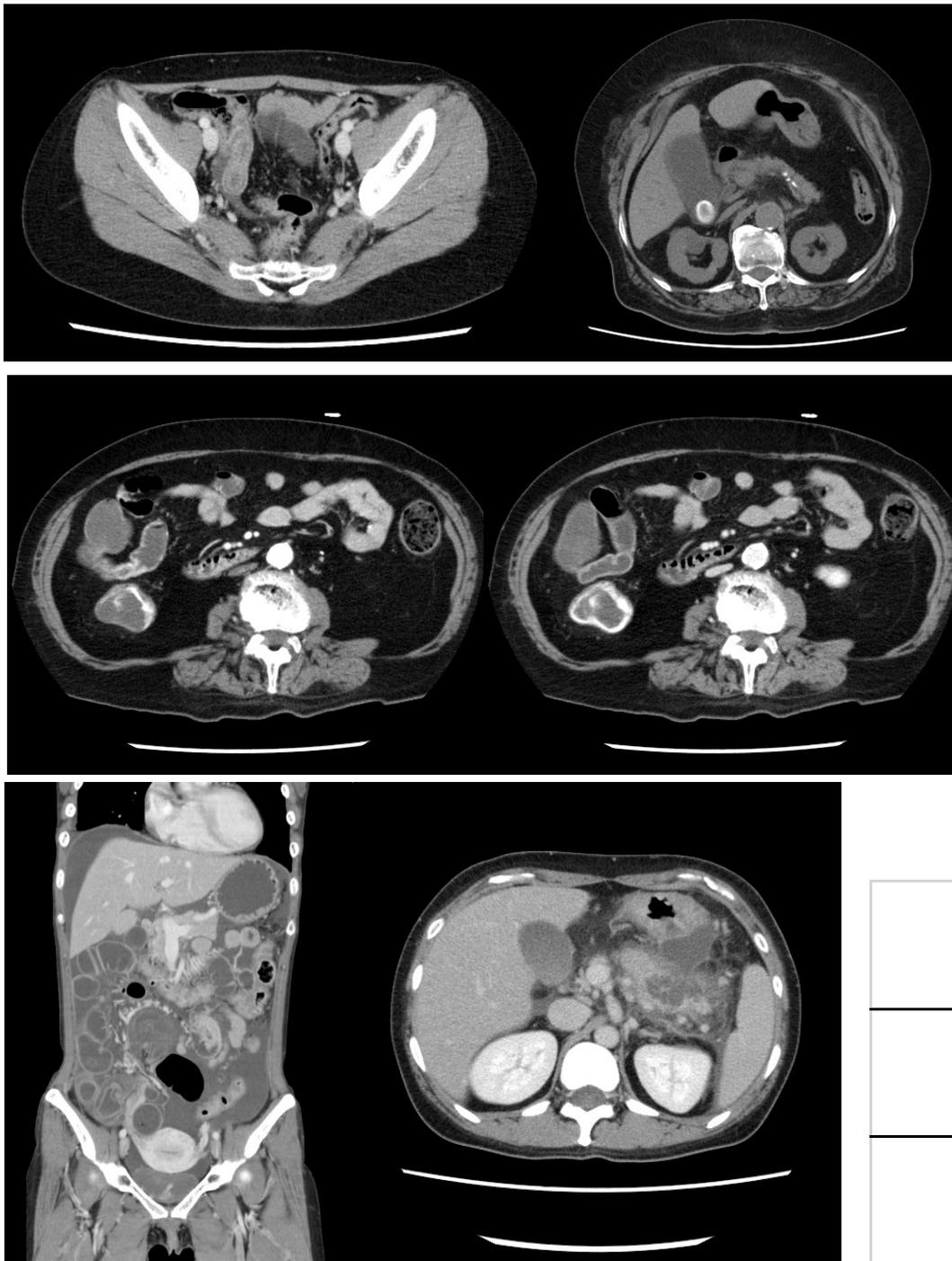
問題 49 次の CT 画像に関する以下の記述で正しいものはどれか。

1. Debaquey 分類 II 型の大動脈解離である。
2. 心電同期撮影を考慮すべき病態である。
3. 心タンポナーデに移行する可能性は低い。
4. 単純 CT や平衡相(遅延相)を撮影しても得られる情報は乏しい。
5. 上大静脈の圧排狭窄により、腋窩静脈や奇静脈系への造影剤逆流が認められる。



問題 50 腹部 CT 画像に関連する記述について誤っているものはどれか。

1. 画像 A は腫大した虫垂と壁肥厚を認め急性虫垂炎が疑われる。
2. 画像 B は胆嚢の腫大と壁肥厚，頸部に胆石を認め急性胆嚢炎が疑われる。
3. 画像 C は上行結腸に造影剤の血管外漏出を認め大腸憩室出血が疑われる。
4. 画像 D は大腸に closed loop と造影不領域を認め絞扼性腸閉塞が疑われる。
5. 画像 D は腓尾部に造影不良域と周囲脂肪織の濃度上昇を認め急性腓炎が疑われる。



A	B
C	
D	